

－ 未利用資源の有効利用（のべ縄によるスズキの漁獲実態）－

藤川裕司

目的及び方法

本テーマは、宍道湖、中海で有効に漁獲されていない魚種の有効活用を図ることを目的としている。今年度は、近年宍道湖で漁獲量が増大していると考えられるスズキについて、その有効な漁獲手法について検討を加えたので報告する。

方法

宍道湖漁協所属のべ縄着業4経営体に、標本船野帳を平成13年4月より配布し、漁獲量、漁獲金額の記帳を依頼した。

結果および考察

野帳記帳4経営体による平成13年4月～14年3月のスズキのべ縄出漁日数とスズキ漁獲量を表1に示した。漁獲量は、春季に多いが、冬季を除く周年漁獲されることが認められた。4経営体による漁獲量の年計は、5.4トンであった。平成11年には、少なくとも23人の着業者が認められており<sup>1)</sup>、仮に平成13年度も同様の人数の着業があったと仮定すると、合計で31トンを漁獲したことになる。この値は、平成13年度の刺網によるスズキ漁獲量22トン<sup>2)</sup>より高い。

のべ縄で漁獲されたスズキ、チュウハン、セイゴの単価を表2に示した。スズキは、8月の932円/kgを最高に全体的に高値を示し、刺網で漁獲されたスズキが、単価が低く、そのため出荷されることも少ないのと<sup>2)</sup>対照的であった。この高値は、のべ縄で漁獲されたスズキは、生魚が即殺され、さらに血抜きを施されるといった、扱いの良さから生じた現象だと考えられる。

これらのことより、近年、宍道湖において資源量が増加しているスズキの利用法としては、のべ縄が優れていると考えられた。

表1 野帳記帳4経営体による平成13年4月～14年3月のスズキのべ縄出漁日数とスズキ漁獲量

	出漁日数	漁獲量(kg)*
4月	2	80
5月	40	1,815
6月	40	1,667
7月	19	452
8月	11	199
9月	6	157
10月	18	567
11月	13	497
12月	0	0
1月	0	0
2月	0	0
3月	0	0
計	149	5434

\*スズキ、チュウハン、セイゴの合計

表2 のべ縄で漁獲されたスズキ、チュウハン、セイゴの単価(円/kg)

	スズキ	チュウハン	セイゴ
4月	677	—	—
5月	544	200	250
6月	732	329	182
7月	747	300	112
8月	932	300	200
9月	575	365	200
10月	681	363	211
11月	387	287	115

## 文献

- 1) 内田 浩ほか (2000) : 平成 11 年度島根県内水面水産試験場事業報告、5-14.
- 2) 本報告の「宍道湖刺網漁業実態調査」